

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンドイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.18

共済部会 第4回活性化部会

(「産業」「観光」「行政経営」分野)

主な議事:分野別方針<産業・商業、農林業>の検討

開催日:平成22年2月25日(木)

会場:みやこめっせ



レポーター 簡吟馨さん

2005年台湾师范大学文学部地理学科卒業。
2002~2003年立命館大学交換留学。
2005~2007年台湾NEC株式会社。
2008年京都大学経済学部研究生。
2009年京都大学経済学研究科

会議のポイント

POINT 1.

事業者の高齢化



京都産業の特徴は、製造業の占める割合が多いことです。しかし、京都の製造業には、人材の流出に加え、事業者の高齢化が進み、後継者不足という問題が起きています。一見「向かい風」に見える問題ですが、発想をかえれば、京都にとっての転機となるかもしれません。産業の付加価値を高める仕組みや、お年寄りが元気に暮らせる環境が整備され、京都の中で完結する産業が根付けば、新しいビジネスチャンスとなるのではないか、という議論がありました。

この会議を傍聴して、 簡さんが思ったこと。

会議の中で、京野菜についての話がありました。京都のまちなかを歩いていると、京野菜を提供する店をよく見かけます。美味しいヘルシーなイメージを持つ京野菜は、健康ブームという最近のトレンドにも合っています。潜在的な消費者は、多く存在するはずですが、問題はどのように京野菜ブランドを全国展開していくかということです。宮崎県の例のように、全国各地で京野菜フェアを開催したり、より積極的に京野菜を使ったヘルシーなレシピをブログやスーパーなどで紹介し、家庭の食卓で取り入れてもらうきっかけをつくってはどうでしょうか。

POINT 2.

農商工+行政との連携



農林業の販路開拓といつても、農協頼みではなく、直接販売や企業と集団化して連携していくなど、いろいろな方法があります。その中で行政が果たす役割について議論されました。平井委員から、山科なすの販売が好調になったのは「京の旬野菜への認証」などであったことが例に出され、「特定農作物の栽培推奨など、生産者や商業者では出来ないことを行政が担ってはどうか。」との提案がありました。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた簡さんの提案

会議の中で「京都発スローライフ」というキャッチフレーズについての議論がありました。これは、まさに「LOHAS」(ローハス/ロハスのこと)を指しています(LOHAS=Lifestyles of Health and Sustainability。健康と環境、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルのこと)。京都には、自然と文化が満ち溢れています。ここに住むと物質的な豊かさだけではなく、心まで豊かになると、私自身も実感しています。これは他の都市にあまりない特徴だと思います。未来の京都は「LOHAS」という方向へもっと進むべきだと思います。物質的なニーズだけではなく、目に見えない精神面のニーズも満たしてこそ、都市と言えるのではないかでしょうか。

U35については、こちらをご覧下さい。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

